



福岡と佐賀の県立科学館に行ってきました

日本で最初の科学館は、大阪市立電気科学館です。以降、名古屋、仙台、札幌、広島という感じで、科学館は大都市に作られてきました。しかし、ここ20年ほど、郊外に県立の科学館が作られています。今回、福岡と佐賀の科学館を訪問する機会がありましたので、ご紹介したいと思います。

福岡県青少年科学館

この施設は、福岡の南部の中心地、久留米市にあります。大阪から一気に行くなら、新幹線の久留米まで行くのが簡単ですが、博多からなら、西鉄が便利で、特急で30分ほどです。館は写真のように大きな公園の中にあります。広々として気持ちがいいのは、都心にいるとوراやましいですね。

主要施設はプラネタリウムと展示場です。料金は大阪市立科学館と全く同じ。天体観測広場も屋上にあって、宇宙に力が入っているのがわかります。また、中庭には、水流のオブジェがあり、周囲から見られました。そのほか、理科室のような部屋が数部屋あり、定期的に教室が開かれているようです。

プラネタリウムは、全国でも鹿児島とここにしかない、レーザープロジェクター式で、通常のプラネタリウムと組み合わせて使っています。訪問したときは「はやぶさカプセル」の展示会開催の関係で、HAYABUSAをかけていました。映像の緻密さはレーザー式の利がある感じでした。

展示では、最初がロケットなどの展示です。ロケット打ちあげ場がある九州らしいですね。惑星の体重は、選択式で全部の惑星が分かるようになっていました。ブリジストンのお膝元ゆえか乗り物にも力が入っていて、ヘリのシミュレーターや自動車の解説シアターが目立っていました。自然環境の展示もボリュームがあります。

圧巻なのは、放電実験のコーナーで、10万ボルトでの「ファラデーのかご」実験です。これは常設のショーです。よし参加を!と思ったのですが、スタッフによる実演でした。でも、ちょっとした演出もあり楽しめました。



佐賀県立宇宙科学館

県立の「宇宙科学館」は日本でここだけです。博多から(久留米からも)特急で1時間あまりのJR武雄温泉駅がもよびです。ただ、駅からの交通手段はタクシーだけです。料金は1000円ちょっとで、帰りは館の受付で呼んでもらいました。500台分の無料駐車場があり、地元の方は車で行くのでしょうか。



到着して驚いたのは、大きさです。湖まである広い公園の一画にあるのですが、コンクリ打ちっ放しの建物そのものも巨大で、広々としたテラスやアトリウムがありました。館内は展示場が3階建てでプラネタリウムと20cm屈折望遠鏡を備えた天文台(毎日公開)があります。宇宙の展示は3階にあるのですが、HIIロケットのエンジンなど、ロケット関係の展示がかなりあります。また、惑星や銀河などの情報もギッシリという感じで圧倒されます。特に人気なのは、宇宙船の操縦体験コーナーと、宇宙飛行士のトレーニング器具の体験で、私も子どもに混ざって体験しました。プラネタリウムは工事中でした。



そのほかの展示では、-20度の部屋が人気だったほか、リアモーターカーに乗れたり、水流の展示あったりといろいろです。特徴として方々に体験コーナーがあり、時間を区切ってサイエンスショーや工作教室をやっていました。電子顕微鏡をのぞくコーナーでは、カルタをしながら顕微鏡写真をさがすといった工夫をしていました。また、びっくりしたのは、レンズを磨いて、望遠鏡を作るという教室があることです。工具なども本格的でした。予約制で2時間500円、定員4人という教室です。なんとも贅沢ですね。

ほかにも、幼児向けのかかなり広い部屋が独立してあったり、立派な図書室があったりと、一日を過ごせる工夫がありました。そうすると、食事も楽しみなわけですが、土日はバイキング(大人1200円)という思い切った献立でした。そして、ポスターやチラシで天体現象の案内が沢山あり、結構な人気でした。

そう、ショップも充実していましたが、特に驚いたのが、メーカー製品をベースにしたオリジナル望遠鏡セットです(3万円と5万円)。これには、なんと館スタッフの指導を受けられる(予約制で、館に来訪)特典がついていました。

渡部 義弥(科学館学芸員)